

四万十町 議会だより

(題字は十和小学校6年生宇都宮海光さん)

NO.78

2026年2月10日発行
高知県四万十町議会

(紹介記事はP.18)



12月定例会(会期12月3日~12月10日《8日間》)

- | | |
|-----------|---------------------------|
| P.2~P.3 | 補正予算質疑 |
| P.4~P.8 | 一般質問 厳しい財政状況など…4人が質す |
| P.11 | 契約案件 他 |
| P.12~P.13 | 模擬議会 |
| P.14~P.15 | 常任委員会報告 |
| P.16 | 発議 他 |
| P.17 | キャッチボール (松葉川温泉について) |
| P.18 | ありやどうなっちゅうぜよ (地元高校振興について) |

初日の出 (興津)



補正予算質疑

Q 山の学習支援事業
補助金8万円の内
容は。

A この補正予算が上
がったのは北ノ川
小学校が、今年度追加で
山の学習をしたいと事業
申請し認められたものだ。

っている地域みらい財団
からの助成を受けるもの。

Q 有害鳥獣捕獲活動
謝金と捕獲報償金
の減額理由は。

A 有害鳥獣捕獲活動
謝金は捕獲に対す
る上乗せ補助に対するも
の。今年度の捕獲数の減
少に伴い事業費の精査を
した結果、謝金900万
円、報償金1000万円
の減額となった。内訳は

Q 地域みらい助成金
5000万円の内
容は。

A この歳入について
はホビー館の改修
事業に充てる財源として
高知信用金庫などがつく

イノシシの捕獲数は令和
6年度が2119頭だっ
たが令和7年度は491
頭で1628頭の減少と
なった。同じく鹿の捕獲
数も令和6年度は103
8頭だったが令和7年度
は896頭で142頭の
減少となっている。

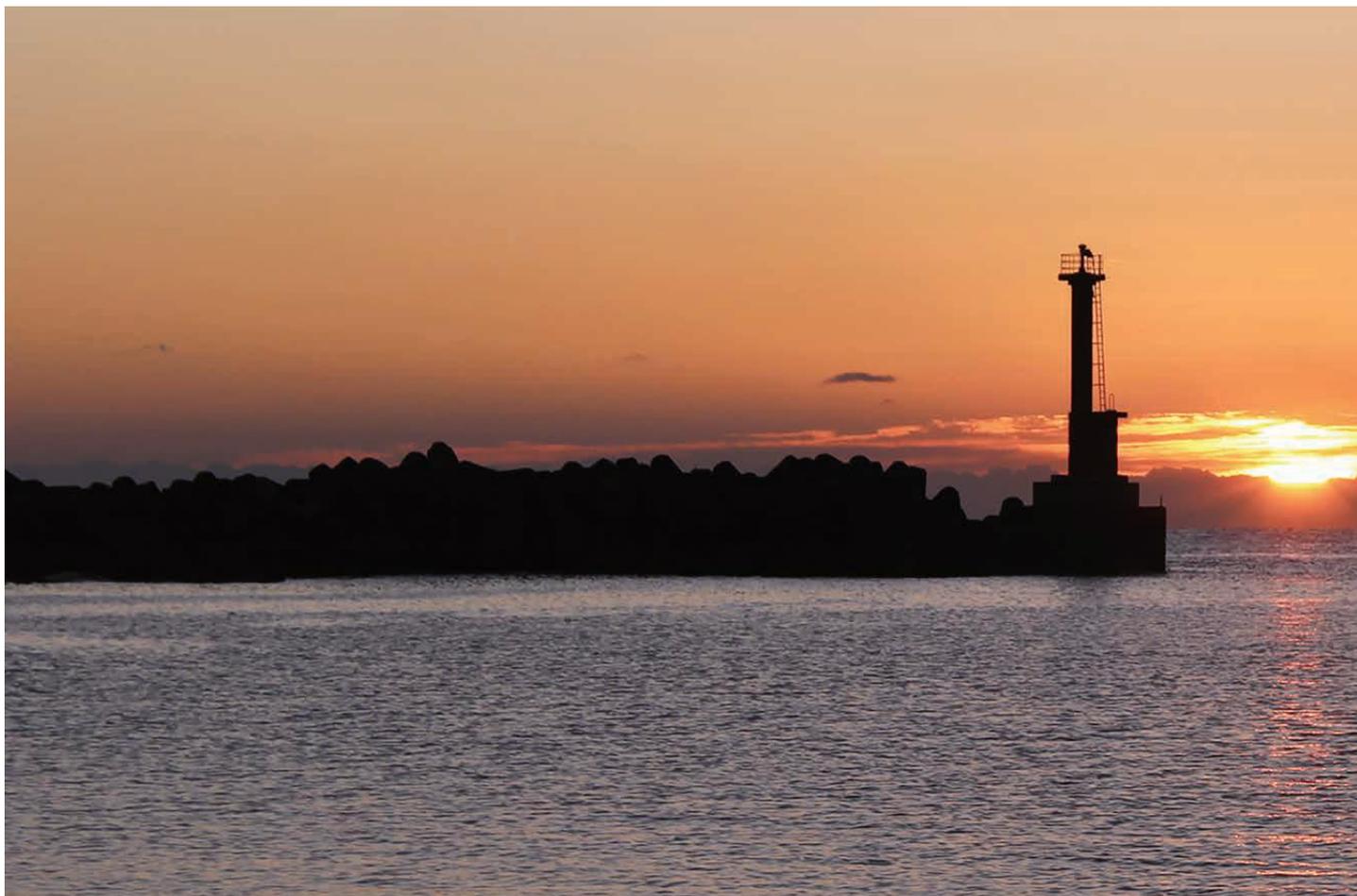
Q 松葉川温泉改修工
事調査委託料40
0万円の内容は。

A この委託料につい
ては松葉川温泉も
設置後30年を経過してお
り、さまざまな箇所が傷
んできている。総合的な
検査や老朽化度合いなど
の検査を実施する必要が
あるため予算を計上した。

Q 松葉川温泉改修工
事費178万円の内
容は。

A 松葉川温泉の浄化
槽のブローアの交換
修繕となっており、現在
2基のブローアがあるが老
朽化しており改修するも
の。

Q 地方交付税670
0万円の減額理由
は。



A 本年度については一般財源がかなり不足する見込みがあったので、財政調整基金から6億5000万円を取り崩さなければならぬ状態だ。12月補正を行うにあたり各課に減額できるものを精査させ減額させた。補正予算については4300万円余りの増額補正になった。一般財源で見ると、この減額している分が余った状態になり地方交付税で調整した。この減額分は内部留保した。

Q かけ崩れ住家防災対策工事費の減額理由は。

A 当初は災害分1件、予防分3件を受け付けていた。分担金が災害分10%、予防分25%となっており、予防分3件

の自己負担が高額なことにより、申請者から取りやめの申し出があった。今年度は災害分1件の申請となり減額となった。

Q 学校施設環境改善交付金3400万円の減額理由は。

A 学校施設環境改善交付金は国の交付金だが、現時点で配分がなく予定していたトイレ改修事業などの工事を実施する財源が必要なので、起債の方に振替をするこ

とで国庫の方は減額補正となった。

Q 四万十川流域森林環境整備事業補助金1500万円の減額理由は。

A 本年度県の上乗せ補助に係る予算額

が減少したことによるもの。その結果この補助金を活用している事業量そのものが減少した。

Q 公共土木現年災害復旧費2億4700万円の工事内訳は。

A 公共災害の補助災害で河川災が17件、道路災が7件。補助災に係らない単独災で河川災が16件、道路災が10件となっている。

一 般 質 問 執行部を質す



中屋 康 議員……………P.5

- 特老施設の経営戦略は
- 公共のトイレの清掃管理は



村井 眞菜 議員……………P.6

- 外国人労働者の環境整備は重要だ
- 十和小中学校の給食を自校方式にしては



佐竹 将典 議員……………P.7

- 男女ともに活躍できる学科を作るべきでは
(窪川高校)



下元 真之 議員……………P.8

- 厳しい財政状況が見えている内容は
- 歳入と歳出の不均衡状態を改善させるには

一般質問は議員自身の考え方をもとに、持ち時間一人 60 分の制限時間の中で、町長や教育長の方針・考え方を問うもの。12 月議会では 4 人の議員が質問。

議会だよりでは質問と答弁を要約し掲載する。



中屋 康 議員

特老施設の経営戦略は 15年から20年を見越した 大規模改修に／町長

中屋 高齢者福祉計画にある「多様な住まい」としている施設の充足状況を聞く。

三本高齢者支援課長

高齢者支援住宅として、「金上野」と「青空」はほぼ満室。同じく生活支援ハウスの「なごみ」「こいのぼり荘」においても待機者はなく、充足している。また、民間の経営する施設の入居も5割から7割程度で推移している。基本的に介護不要の入居施設が多く、今後は高齢者数の減少が見込まれる中で、需要に即した施設への転換が必要と考えている。

中屋 特老施設「窪川荘」「四万十荘」の事業経営戦略の内容を聞く。



窪川荘

佐竹特別養護老人ホーム

事務長 令和6年度に実施した調査や、介護認定者数の推計を見据え検討した結果、現在の定員を維持し、両荘を長寿命化改修していく予定。

中尾町長

大規模改修を行い15年から20年の後に、新たに検討する方向性にする。

公共のトイレ

公共のトイレの清掃管理は 各課で管理、今後共有していく

／にぎわい創出課長

中屋 観光客やインバウンドの増加とともに、道の駅、公園、その他公共トイレの利用頻度が増え、清潔さを保つことがさらに必要となっている箇所もあると聞く。町内に設置の公衆トイレの清掃状況を聞く。

小笹にぎわい創出課長

現状の管理状況は建設課が公園管理、企画課はJRの駅、農林水産課はあぐり窪川。公園管理が各地域振興局とまとがっている。清掃回数も委託時に各担当課

小笹にぎわい創出課長

本町管理の公衆トイレは窪川地区で17カ所、大正地区8カ所、十和地区11カ所で、清掃については、指定管理者や地区や常会、シルバー人材センターへの委託で実施している。

中屋 各施設における清



利用頻度が上がっている公衆トイレ

国際交流

外国人労働者の環境整備は重要だ
交流イベントの開催を検討

／にぎわい創出課長



村井 真菜 議員

村井 四万十町における外国人労働者の人数は。

小笹にぎわい創出課長

12月1日現在で住民登録がある外国人数は117人となっており、内訳はフィリピンが最も多く、次いでインドネシア、ベトナム、中国、ミャンマー国籍の方が多くなっている。

村井 外国人労働者の環境整備は、一つの地域からできる平和外交ではないかと考える。本町における環境整備はどのよう

に進めていくか。

小笹にぎわい創出課長

町内でも英語の表記であるとか、交流イベントの開催といったことから始めていくという形で考えている。



町内の外国人労働者

教育振興

十和小中学校の給食を自校方式にしては
新たな設備を整備する状況にはない

／教育次長

村井 十和小中学校の校舎改築の進捗状況は。

川上教育次長

現在、プロ

ポーザル方式による基本設計業者の選定作業を行っている。令和8年度中に設計

作業を完了させ、令和9年度から10年度にかけて建設工事を行う。工事の完了時期にもよるが、遅くとも令和11年度から供用を開始したい。

村井 十和小中学校の給食を自校方式にし、有機給食のモデル校にしてはどうか。

川上教育次長 十和給食センターは、建築後約20



十和学校給食センター

年。その間、さまざまな維持修繕を行い、今後20年間ぐらゐは使用できるという見込み。今のところ十和小中学校の給食提供を自校方式に転換し、新たな設備を整備するという状況にはないと考えている。

その他の質問

● 高校存続について



佐竹 将典 議員

男女ともに活躍できる学科を作るべきでは 学科設置はハードルが高い

／教育次長

佐竹 四万十町も農業従事者のなり手不足という中山間地域特有の課題を抱えている。中山間地域にある高校として、地域が抱えている問題を解決できる学科をつくる方が良いのではないかと。また、過去10年間の窪川高校の生徒数は女子生徒の方が多いが、なぜ男子生徒しか活躍できない部活を復活させるのか。

川上教育次長 新たに学科を設置しようとするのであれば、卒業に必要な単位数を設定しているので、県の教育委員会に学科設置を認めてもらう必要がありハードルが高い。窪川高校は農業高校として発足したが、昭和57年に農業科がなくなつた。

理由は判然としないが志望する生徒数の減少や県が農業科や林業科を一定

まとめた結果だ。

佐竹 今年の夏の甲子園に出場した東大阪柏原高校が、2029年度末に閉校することを発表した。窪川高校に野球部が復活しても生徒が必ず窪川高校に入学してくる保証はないが、この事業はどのような形になれば成功なのか。

川上教育次長 成功基準といえば県が示した努力目標を達成、または達成見通しが一定見られるということが一つの基準になる。

佐竹 この事業を撤退する判断基準を問う。

川上教育次長 野球部があるうちは事業が続いていくが、部員が少なくなつて公式戦に出場できな

くなり、部として存続できなければその時点で事業終了になる。

山脇教育長 野球部設置

は窪川高校振興策の一つの手段であつて目的ではない。そして将来的に少子化が進んで、域外からも生徒が集まらない場合いく。は野球部のみならず高校存続自体に関わってくる。この2年間は最大限努力できるところは支援していく。



窪川高校

財政運営

厳しい財政状況が見えている内容は 大型の施設整備が控えている

／総務課長



下元 真之 議員

施設、保育施設、ケーブルテレビや特老などの新設や改修工事など、大型の施設整備が控えている。公債費の積み上げにつながり、起債償還（借金返済）のための財政圧迫が予想される。

今後の新設や改修が財政圧迫につながる懸念はしているが、これまで取り組まれてきた行政のサイクルで、今ちようど直面しているのであり、特段、痛みを先送りされてきているとは考えていない。

下元 近年、深刻な財政危機に直面している自治体報道が多発しており、本町でも令和11年度からの厳しい財政状況が見えているとのことだが、内容を問う。

佐竹総務課長 現在の財政状況は良好な状態にあるが、今後、ゴミ処理施設の改修をはじめ、学校

下元 課題について、痛みの先送りでの施設の統廃合やスリム化をせず、過剰な維持管理費に耐えられなくなるなどの指摘の自覚を問う。

佐竹総務課長



歳入と歳出の不均衡状態を改善させるには 事業資産や施設のコントロールが重要

／総務課長

下元 令和7年度当初予算では財政調整基金を6億5000万円取り崩して予算を組んでいるが、歳入と歳出の不均衡状態を改善させるための方向性や考え方を問う。

佐竹総務課長 要因は、コロナ禍以降の人件費や物価高騰に伴う義務的経費や物件費等の増加が主だ。

人口減少、少子化、物価高騰などは簡単に解決できる問題ではなく、今後とも長期的に続いていく。事業の優先順位や取捨選択の判断をしながら、事業資産や施設の予算上のコントロールが持続可能な財政運営の重要なポイントになる。

下元 財政調整基金を取り崩しての予算編成は当たり前の状態ではない。

優先順位の高い事業にはしっかり財源を充て、低い事業は削るなり統合するなりしないと新しいことができない。

佐竹総務課長 事業評価や補助金審査会などでも事業のサイクルについて見直しもしてきた。今後はさらに踏み込んだ優先順位や事業費減額などの考え方を考え直す転換期ではないか。

その他の質問

●本町の1次産業従事者の減少について

財政運営



意思表示

○賛否の分かれた議案なし

○全会一致の議案

【12月定例】 議 案	結 果
議案第89号 四万十町観光交流拠点施設用地の売買契約の締結について	可決
議案第91号 高幡広域市町村圏事務組合の共同処理する事務の変更及び高幡広域市町村圏事務組合規約の一部変更について	可決
議案第92号 高幡広域市町村圏事務組合規約の一部変更に伴う財産処分について	可決
議案第93号 四万十町子育て支援住宅条例について	可決
議案第94号 四万十町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例について	可決
議案第96号 四万十町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第97号 四万十町フルタイム会計年度任用職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第98号 四万十町保育所条例の一部を改正する条例について	可決
議案第99号 四万十町地域子育て支援センター条例の一部を改正する条例について	可決
議案第100号 児童福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例について	可決
議案第101号 四万十町大正生活支援住宅条例の一部を改正する条例について	可決
議案第102号 災害時等における給水装置工事及び排水設備工事に関する関係条例の整備に関する条例について	可決
議案第103号 四万十町ケーブルネットワーク条例の一部を改正する条例について	可決
議案第104号 四万十町旧都築邸に係る指定管理者の指定について	可決
議案第105号 四万十町総合交流拠点施設に係る指定管理者の指定について	可決
議案第106号 令和7年度四万十町一般会計補正予算（第4号）	可決
議案第107号 令和7年度四万十町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第108号 令和7年度四万十町国民健康保険大正診療所特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第109号 令和7年度四万十町国民健康保険十和診療所特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第110号 令和7年度四万十町大道へき地診療所特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第111号 令和7年度四万十町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第112号 令和7年度四万十町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第113号 令和7年度四万十町特別養護老人ホーム窪川荘特別会計補正予算（第2号）	可決
議案第114号 令和7年度四万十町特別養護老人ホーム四万十荘特別会計補正予算（第3号）	可決
議案第115号 令和7年度四万十町水道事業会計補正予算（第2号）	可決
議案第116号 令和7年度四万十町下水道事業会計補正予算（第2号）	可決
議案第117号 令和7年度四万十町一般会計補正予算（第5号）	可決
陳情第7-5号 陳情書「国民健康保険に対する国庫負担の増額等を求める意見書」採択のお願い	不採択
陳情第7-10号 要望書	採択
発議第1号 次回参議院選挙までに合区の解消を求める意見書	可決

令和7年9月から令和7年12月定例会まで 各議員の出席状況

○：出席 欠：欠席 /：参加要請なし

月 日	用務の概要	緒方 正綱	下元 真之	武田 秀義	山本 大輔	林 健三	村井 眞菜	佐竹 将典	中野 正延	伴ノ内 珠喜	中屋 康	水間 淳一	味元 和義	橋本 章央	堀本 伸一
9月17日	地域聞き取り調査（松葉川地区）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月20日	第36回土佐牛まるかじり大会	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
9月26日	広報・広聴常任委員会	/	○	○	○	/	○	○	○	○	/	/	/	/	/
9月29日	議会改革調査特別委員会	/	○	○	○	/	○	○	/	○	○	/	/	/	/
10月6日	広報・広聴常任委員会	/	○	○	○	/	○	○	○	○	/	/	/	/	/
10月7日	全員協議会	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10月8日	第63回四国地区町村議会議長会研修会	○	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
10月14日	産業建設常任委員会	○	/	○	○	○	/	/	/	○	/	○	○	/	/
10月15日	広報・広聴常任委員会	/	○	○	○	/	○	○	○	○	/	/	/	/	/
10月18日	第31回四万十川ウルトラマラソン大会 前夜祭	/	/	/	/	/	/	/	/	○	/	/	/	/	/
10月19日	第31回四万十川ウルトラマラソン大会(60kmの部)開会式	/	/	/	/	/	/	/	/	○	/	/	/	/	/
10月21日	教育民生常任委員会	/	○	/	/	○	/	○	/	○	/	/	/	○	○
10月23日	広報・広聴常任委員会	/	○	○	○	/	○	○	○	○	/	/	/	/	/
10月23日	高知県須崎土木事務所四万十町事務所との意見交換会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10月26日	模擬議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	欠
10月31日	令和7年度トップセミナー	欠	○	○	○	/	○	/	/	/	○	/	○	/	/
11月4日	総務常任委員会	欠	/	/	/	/	○	欠	/	/	/	○	○	○	○
11月14日	議会改革調査特別委員会	/	○	○	○	/	○	○	/	○	○	/	/	/	/
11月18日	教育民生常任委員会	/	○	/	/	○	/	○	/	○	/	/	/	○	○
11月20日	産業建設常任委員会	○	/	欠	○	○	/	/	/	○	/	○	○	/	/
11月27日	四万十町戦没者追悼式	○	○	欠	○	○	○	欠	欠	○	○	○	○	○	○
12月1日	議会運営委員会	○	○	○	○	/	欠	/	/	○	○	/	○	/	○
12月3日	令和7年第4回定例会（開会）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
12月3日	全員協議会	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
12月3日	総務常任委員会	○	/	/	/	/	欠	○	/	/	/	○	○	○	○
12月4日	教育民生常任委員会	/	○	/	/	○	/	/	○	/	/	/	/	○	○
12月5日	産業建設常任委員会	○	/	○	○	○	/	/	/	○	/	○	○	/	/
12月9日	令和7年第4回定例会（第7日目）	/	○	/	/	○	/	/	/	○	/	/	/	○	○
12月10日	令和7年第4回定例会（第8日目）	○	/	/	/	/	○	○	/	/	/	○	○	○	○

*紙面の都合上、議長のみ出席用務（14件）は省略しています。



契約案件

四万十町観光交流拠点施設用地の売買契約の締結について

■ 契約件名

四万十町観光交流拠点施設用地の売買

■ 土地の所在

四万十町平串472番地1 他30筆

■ 土地の面積

合計11402㎡

■ 契約金額

合計2436万2300円

条例

四万十町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例について

子ども・子育て支援法等の一部が改正され、四万十町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定めるもの



Q 生後6カ月から満3歳未満で保育所などに通っていない子どもを、月一定時間預け入れ体制と月一定時間の基準は。



A 本町では、満1歳以上の保育所入所率が95%を超えている状況で該当する子どもは少ないと見込まれること、また、限られた保育士を効率的に配置する必要があることから、まずは窪川、大正、十和の「子ども・子育て支援センター」で受け入れ体制を整え、その後の状況を見て保育所での受け入れ拡大を検討する。利用時間は、全国標準で月に10時間程度と枠が定められており、本町においてもその標準時間の範囲内で利用いただくことを想定している。

四万十町地域子育て支援センター条例の一部を改正する条例について

子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律により、本町における誰でも通園制度については、現状の保育施設等を運営する中で、限られた保育士を効率的に配置しながら制度を運用するため、令和8年度から町内3カ所に設置している地域子育て支援センターで実施するもの



Q 現在実施の「一時預かり事業」については、利用申請、電話

連絡、利用7日前までに利用申請書の提出とあるが、新たな預かり制度に違いはあるのか。



A 申請の流れは、通常保育の支給認定と同じような手続きで、資格要件を確認後に利用したい施設に申し込みを行い面談を受ける流れになる。



Q 1時間当たり300円を超えない範囲内で定める利用料金について、設定の根拠を示せ。



A 全国で標準的な利用料金として国が1時間300円としており、本町も準拠して条例整備をしている。

災害時における給水装置工事及び排水設備工事

に関する関係条例の整備に関する条例について

災害その他、非常時の場合、給水装置工事及び排水設備工事に係る指定工事事業者の確保が困難と判断された場合に、被災地外から来る応援事業者の受け入れ体制を整備するもの



Q 応援を受け入れる業者は、他市町村の指定を受けた工事業者とあるが、県内外は問わないか。



A 県内だけでなく、全国含めて応援に来ていただける事業者としている。

応援要請は県や水道協会などを通じて一定対応可能な業者を選定してもいい応援要請することになる。

四万十町ケーブルネットワーク条例の一部を改正する条例について

主な改正として運営開始から15年以上が経過し、宅内工事の指定業者制度、各種サービス事業の非現行部分の修正を行うもの



Q 利用料金に低速インターネット、高速インターネットについて、月額6000円が表記されているが、全プランの料金が。



A 今回、高速1ギガのプランを新たに設けたもので、税込6600円と設定している。また、それ以外の既存の30メガ、100メガについては従前の金額設定のままを予定している。

四万十町模擬議会を開催

四万十町議会改革調査特別委員会では女性議員を含む議員のなり手不足解消の取り組みとして、令和7年10月26日に「模擬議会」を開催しました。

当日は、開催の呼びかけに応募された9人（男性5人、女性4人）が議員役となり、30分の持ち時間で執行部に対して、本議会さながらに白熱した質疑が展開されました。質問された9人の質問要旨を掲載します。

吉田 健一（米奥）



高齢者福祉予算の使途と住民の美感について

①高齢者福祉予算の使途と住民が感じる「支援不足」の要因を分析し、満足度向上への改善策を問う。

の方向性について問う。

山脇 恵（七里）



高齢者とペットの問題について

- ①近年、高齢者による多頭飼育崩壊や飼育放棄が増加しているが、四万十町での状況を問う。
- ②①の状況が起こった場合の対処法を問う。
- ③行政と動物愛護団体やペットに理解のある地域住民との連携を問う。
- ④高齢者向けに「もしもの時」の預かり先を決めておくことや相談のできる窓口など、事前の備えや啓発の仕組みを問う。
- ⑤ペットを飼っている高

文化施設整備と文化行政の方向性について

①文化施設整備に活用する特定財源の仕組みを住民にどう説明し、福祉予算との誤解を防いでいくか。あわせて、施設整備が観光や教育に果たす意義を明確にし、文化行政を高齢者の生きがいや若者の教育など、他分野と連携させていくための今後

齢者の現在の日常飼育のハードルを下げる支援（高齢者を見守る意味合いを含めたペットの世話や各種費用補助、動物病院通院時の移動支援など）を問う。

佐田 菜摘（相去）



開発事業と環境保全について

①人工物が少ない自然の景色や、きれいな水、空気がこれから益々貴重になっていく中で、町としてそれを守っていく方向性はあるのかを問う。

②今後、さまざまな開発から、自然環境を守るための独自の条例を策

定するなど具体的な対策の計画はあるのかを問う。

リサイクル推進について

- ①リサイクル率を上げ、可燃ゴミの量を減らす対策はしているか問う。
- ②紙ゴミの収集が月一回で、雨の場合見送られるため出しづらい。またビン等も置き場に困ることがある。クリーンセンター銀河に持つていくにも遠路である。手軽にリサイクルできるようにするために、各役場へ持ち込める仕組みをつくれなにか問う。
- ③ゴミの資源化のための分別方法について小冊子をつくってはどうか問う。

横田麻梨子（奈路）



子育て世代の住みやすさの向上対策について

①保育園入園・進学時に毎年多くの資料提出が必要で毎年変わらない情報も手書きで記入している。事務負担軽減のためにDX化による効率化をどのように進めるのか問う。

②今後の保育園の統合や新設の可能性、また図書館・公園などの既存資源と連動した魅力のある施設づくりについて問う。

③①と②の取り組みを「子育てしやすい町」の強みとしてどのように移住希望者に発信し、



人口減少対策や定住促進につなげていくのか問う。

小野 雄介（大正）



四万十高校の魅力化対策について

①生徒数確保の施策について町外生、地元生それぞれの対策について問う。

②町外生を受け入れる寮対策の考えについて問う。

③今後、学科の新設や町としての関わりを問う。

地域おこし協力隊について

①町内各地区の配置人数について問う。

②新規募集の状況について問う。

槇野 一人（家地川）



地域創生について

①人口減少対策として、地域資源を活かした新しい雇用創出や企業誘致の方針と、近隣市町村との広域連携による雇用創出の取り組みを問う。

②未来のまちづくり基盤である人材育成について、「四万十町人づくり戦略」における各種人材育成事業の実施状況と成果を問う。

③町民の参画を促すため、将来ビジョンを語る町コンテストの開催など、

町民の声が反映される仕組みの提案。加えて、移住者と地区双方にメリットのある仕組みづくりや、移住に伴う地区への交付金支給などの空き家・移住対策を問う。

太田 宗隆（上宮）



公共交通について

①高齢化に伴う免許返納者の移動不安解消や通院支援に向け、コミュニケーションバスの運用計画や具体的な対策を問う。

①不登校の現状と原因や対策に加え、児童生徒のスマートフォン長時間使用による生活リズムの乱れへの指導と対策を問う。

町道の整備について

①町道の安全確保のため、高所にある危険木の伐採について、町の具体的な維持管理対策を問う。

濱崎 康子（金上野）



林業現場での女性活用

①深刻な人手不足の中、林業就業を希望する女性が増えている。妊娠・出産等の女性のライフイベントに伴う企業側の負担を軽減し、雇用を促進するための助成制度を検討できないか

問う。

外国人への教育について

①増加する外国人労働者が円滑に業務や地域活動に従事できるよう、言葉の壁を解消する必要がある。コミュニケーション能力の向上と定住支援の観点から、町独自の日本語教室を開設する考えはないか、町の見解を問う。

古谷 信尊（古市町）



農業振興について

①基幹産業である農業振興に向け、山間地でも活用できる「農業支援サービス」の確立が急務だ。営農支援センターの体制や業務量、役割の現状を問う。

鳥獣害対策について

①深刻な鳥獣害は営農の死活問題であり、実効性ある防止計画が求められる。被害実績や生息数の推移をどう把握しているか問う。

②専門家によるモニタリング調査を通じた詳細な実態把握の必要性、及び捕獲後の処理の壁を解消するための「鳥獣処理施設」の建設に向けた考えと、実現への課題について町の見解を問う。



常任委員会報告

総務常任委員会

【9月5日】

①婚活事業の審査及び婚活事業に対する意見提言書について、事業当初より膨らんだ予算額に対する費用対効果に課題があるとし、現事業の見直し等を求める内容で提出。

②仁井田・影野地域聞き取り調査の内容確認について、集落活動センター仁井田のりん家について担当課に報告を求めた。最も多かった要望のコミュニケーションバス週2回の増便を求める声をはじめ、携帯電話の不感地帯、消火栓の水圧低下等、意見、要望を執行部に回答を求め、取り組みを進めてきた。

【10月16日】

①職員の懲罰について、今回の職員懲戒処分的事案は既に懲罰審査会の処分結果を受け、対処している問題ではあるが、今後同じ過ちを起さないため、上司からの口頭注意、指導にとどめず、その原因究明を行い、チェック機能等の対応策を講じるよう、厳しい協議がなされた。また、停職中の職員へのアフターケアも重要なことであるという意見が交わされた。

②予算編成については厳しい財政事情を考慮し、各種補助金などを慎重に交付すること、また、指定管理者等についても物価高騰の事情を考

慮する必要があるのではないかと意見が出された。この2件については、提言書が出せるよう、継続調査とした。

③地域聞き取り調査の要望、意見等に対する執行部回答の確認について。

④梶原町視察研修について、

本町の集落活動センターの現況を調査。

【11月4日】

梶原町集落活動センター「あいの里まつばら」と梶原町役場を視察。

町としての集落活動センターの位置付け、経済的支援の内容、委託業務の有無、町民の集落活動



11月4日梶原町視察研修

センターへの理解や反応、地域外の人材募集、地域おこし協力隊が集落活動センターに携わっている事例などを伺った。学んだ内容を本町の状況と擦り合わせ、今後町として改善、変革していくべきことなど、委員会として取りまとめていく。

教育民生常任委員会

【9月3日】

①十和小中学校改修計画について、学校教育課から6月27日に保護者、地域住民への説明会を実施した旨の報告があり、町の方針として、十和小中学校は合築とし、新たな校舎の設置箇所は十和中学校敷地内とする案、併せて、工事期間中は十和中学校グラウンドが使用できないため、「十和中学校を一時的に旧昭和小学校に移転する」案も検討している旨説明をし、両案ともに異論がなかったとの報告を受けた。

②窪川運動場（金上野）にある夜間照明のLED化工事請負契約が5000万円を越える工事となるため、生涯学習課より現地にて説明

を受けた。

【10月21日】

県立高等学校再編計画に関連して、窪川高校硬式野球部の復活の動きがあることから、先進的な教育活動の取り組みを実践している梶原高校へ学校教育課担当とともに視察研修をした。

当日は、学校長から地域と連携した学校存続に向けた取り組みについて、これまでの動きの説明を受け、学生寮や野球グラウンドの整備状況を視察した。校長からは、野球部復活の動きについて、野球部志望生の後年に続く受け入れ体制、後援会組織が必要であることや、寮の運営確保も行政との連携が必要とのアドバイスを受けた。

【11月18日】



10月21日梶原高校視察研修

①高齢者向け生活支援住宅「青空」の条例改正の動きについて、大正町民生活課より説明を受けた。施設は、現在食事サービスでの調理員確保が難しい状況となり、食事提供が困難になっていくので、今後は「配食サービス」に切り替えて改善を図

るために条例改正を提案する旨の報告を受けた。②6月4日付で本委員会に付託を受けて、継続審査としていた、陳情書「国民健康保険に対する国庫負担の増額等を求める意見書」採択のお願いを審査した。

産業建設常任委員会

委員会の取り組みとして、

- 1 一次産業を活性化させる取り組み
- 2 商・観光業を充実させる取り組み

この2つを柱としている。

【9月5日】

- ①観光振興について
- ②陳情、請願の精査をテーマとした。

①観光協会とにぎわい創出課と意見交換を行った。まず、観光協会より1年間の計画や結果について報告を受けた。内容的には外国人観光客が増加している反面、外貨の両替、宿泊先の確保に苦慮されているとのこと。今後は地域資源を活かしたツアーや観光資源が豊富な本町にあってそれらを線でつなぐことを意識し、今後も双方連携した取り組みを要望した。

②志和の町道認定については、9月の定例会にて全会一致で可決、認定済。平串の町道については、有効幅員について引き続きの調査が必要ということで継続審査とした。

【10月14日】

本山町にて営農継続総合対策事業についての現地視察を行った。

農業用機械購入・修繕の補助、花卉園芸継続支援等の施策説明を受けた。財源的には決して豊かではない一般財源の中でも、補助について少しずつ修正をしながらも、農家への支援は引き続き行っていききたいとのことであった。本町においても参考にしながらの取り組みが必要であると委員会、担当課とも共有できた。

【11月20日】

四万十町地域おこし協力隊（民間企業等受入型）についてをテーマとした。人手不足という課題を解消できる有効な手段と考えることから、担当課のにぎわい創出課から内容について説明を受けた。単に人手不足を補うための施策ではなく、ある一定の条件を満たすことで手を挙げられるということ。委員からは、条件の見直し等を行い、もう少し拡充はできないか等の意見があり、今後積極的な情報発信や採用増を期待する。また、ホビー館の改良工事の計画、概要の報告も受けた。



10月14日本山町視察研修

発議

次回参議院選挙までに合区の解消を求める意見書

【発議者】 山本 大輔
【賛同者】 味元 和義

林 健三

参議院の合区制度は一票の格差を是正する一方、高知・徳島等の地域代表性を損なっている。参議院改革協議会でも解消を求める意見が大勢を占めており、地方創生の観点からも2028年の参議院選挙までの早期解消が不可欠である。次回参議院選挙までに合区を解消するとともに、地方創生の理念を踏まえた選挙制度を早急に構築するよう強く要望する。

採決結果

全会一致により可決

陳情

陳情書「国民健康保険に対する国庫負担の増額等を求める意見書」採択のお願い

不採択

要望書

要望趣旨 ①町道平串

赤草線の拡幅改良対策

②観光拠点施設工事期間中の工事車両専用通路対策

採択

指定管理

四万十町旧都築邸に係る指定管理者の指定について

指定管理者

四万十町宮内76番地7
特定非営利活動法人LIFE

代表理事 井上義之

指定期間

令和8年4月1日から
令和13年3月31日まで

四万十町総合交流拠点施設に係る指定管理者の指定について

指定管理者

四万十町十和川口62番地9

株式会社とおわ

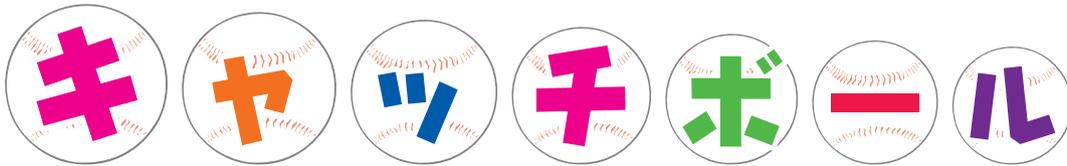
代表取締役 中野千里

指定期間

令和8年4月1日から
令和13年3月31日まで



四万十町総合交流拠点施設（道の駅四万十とおわ）



このコーナーは町民の皆様からの議会に対する意見や、行政に提言をしてもらいたいこと、また旬の話題などを取り上げて、議会と町民の皆様とのキャッチボールを行うものです。



松葉川温泉

「松葉川温泉」

Q 指定管理者が変わって、休館日や営業時間はどうなっちゃうの。

A 休館日を撤廃し、ゆとり〜むの営業時間を午後9時まで延長して営業しています。
*前年度より月平均で宿泊者は370人、入浴者は220人ほど増えています。

Q どうして来客者が増えてきゆうが。

A 外国からの観光客や、指定管理者のプロモーション効果もあり、国内外の利用者が増えています。これに対応

できる体制を整えていることが要因だと思われま。

Q 食事ができた

A 休憩室をイートインコーナーとして、ケトルや電子レンジを設置し、ドリンクだけでなく食べ物も自販機に揃えています。



松葉川温泉の休憩室

Q いろんな町民の憩いの場所になつていくが。

A 駐車場エリアなどを利用したマルシェイベントや、川べりなどを利用したのサウナなど、多くの方に楽しんでいただけるよう、自然を活かした憩いの空間を広げていきます。

Q 食事ができた

A 休憩室をイートインコーナーとして、ケトルや電子レンジを設置し、ドリンクだけでなく食べ物も自販機に揃えています。

また、町内外のパン屋や、スイーツ店に協力してもらい、レギュラーで商品を展開しています。
*売店売上額は前年比の2.5〜3倍で推移しています。



「地元高校振興」

Q 9月定例会にて、町長の行政報告で、窪川高校に野球部を復活させるとあったけれど、そもそもなんで野球部復活なが。

A 町内の県立高校は、県が策定した「県立高等学校振興再編計画」で、今後3年間の入学者数に努力目標が設定され、その目標の達成に向けて、学校と町、地域が連携し、進学者数の確保に向けて、学校の魅力を一層推進していくこととされています。

現状のままで目標を達成することは非常に厳しい状況にあり、学校側と協議を行い、窪川高校においても四万十高校と同様に、町外からの入学者確保に連携して取り組むこととしました。具体的な取り組みとして、中学生が進学を考慮の上で重視する部活動の振興を検討する中で、国内でも関心の高い野球部の復活を進めることとし、窪川高校の魅力の向上を図ることとしました。

そのためには、県や高校だけの取り組みとするのではなく、町全体の喫緊の課題として、一緒に振興を行うこととしています。

Q 廃部になつちゅうがは大変やないが

A 現行では窪川高校の野球部は廃部となっており、日本高等学校野球連盟への申請をはじめ、多岐にわたる調整事項がありますが、4月からの野球部復活を目指し一つ一つ町と高校側が協議を進めている状況です。

Q 四万十町が活気づく夢のある話やけど、今後どうなっていくがよ。

A 県立高校の再編計画により、存続の判断が下されるまでの猶予は実質2年間(令和8・9年度)しかありません。この期間内に成果が出なければ、統合や閉校の対象となる非常に厳しい状況にあります。決して野球部の復活だけでなく全てが解決するわけではありません。高校がなくなることは町の衰退に直結するため、野球部復活を呼び水とした魅力

Q 野球をしにきてくれる生徒はおるが

A フロンティア募集において、13〜14人の方が入学を希望しているという情報があります。

Q 四万十町が活気づく夢のある話やけど、今後どうなっていくがよ。

A 県立高校の再編計画により、存続の判断が下されるまでの猶予は実質2年間(令和8・9年度)しかありません。この期間内に成果が出なければ、統合や閉校の対象となる非常に厳しい状況にあります。決して野球部の復活だけでなく全てが解決するわけではありません。高校がなくなることは町の衰退に直結するため、野球部復活を呼び水とした魅力

化施策を全力で推進し、引き続き生徒確保に繋げていく必要があります。

表紙の紹介

「令和8年二十歳の集い」

令和8年1月2日二十歳の若者が思いも新たに、各々の道を歩み始めました。

若者たちに幸多かれと願っています。



編集後記

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

今年には戦争の放棄を掲げる日本国憲法の公布80年の年。4月には本町の町長選挙と町議会議員補欠選挙が予定されており、無投票では民主主義が成り立たないとの危機感から、四万十町議会も、なり手不足対策に取り組んできました。選挙という土台で、主権者である町民がこれからどんな町を望むのか、向き合う大切な機会です。自由と権利を保持するには、不断の努力が必要だと歴史が語りかけています。みなさま、今年も良い年にしましょう！
(村井 眞業 記)

「広報広聴委員会」

- 委員長 武田 秀義
- 副委員長 中野 正延
- 委員 山本 大輔
- 村井 眞業
- 佐竹 将典
- 伴ノ内珠喜
- 中屋 康
- 下元 真之